

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	郊外の田園に立地しているため、自然豊かであり、季節感を感じることができます。当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、畑活動やオンラインでのサロン参加、神社清掃等を一緒に行いながら、職員や利用者との馴染みの関係作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	岡田 直子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	3人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 本人の困り事や望む暮らし、普段の暮らしを知り、地域資源を活用しながら、その人が住みなれた地域で過ごしていけるよう支援していく。 本人と家族との対話を重ね、その人に必要なプランの見直しを行い、申し送りノート等活用しながら、全職員が共通認識の上でケアが出来るよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ご本人と関わりを持ちながら、日々想いに寄り添いながら支援できたと思う。新型コロナウイルス感染予防のため、人との接触を避けながら、外出（散歩・神社参拝）を積極的に行った。 声にならない声を把握、考察することで、日々のケアに繋がっていく。また、家族とのカンファレンスをこまめに行うことで、常に情報の共有が出来ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のため、地域に出向くことが少なかったため、もっと詳しく知りたい。 回覧板にて、毎月きらめきの新聞を見ているので、コロナの中でもいろいろしているなど感心した。 動画で日々の様子が見られてよかった。 マスク作りは、利用者の得意な所を活かされ、とても良い取り組みだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の出向くことは少なくなったが、日頃の様子などを、地域の方にも知っていただけるよう、Instagramやフェイスブック等を活用していく。 全職員にて利用者、家族、地域との信頼関係を構築し、より良い事業所となるように努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 電話応対や来客者の応対について再度見直し、気持ちよく来所して頂ける様に努めていく。 地域の方や他事業所の方が、気軽に立ち寄れるように工夫し活気溢れる事業所を目指していく。 朝の鍵の開け忘れがないように、職員全員に開錠時間の共有を行い、開け忘れの無いように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方との関わりは、入室制限のため出来なかった。入室、面会を希望されても出来ないことがあった。 事務所が不在になる事も多く、電話での待ち時間もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症で事業所に来訪する機会が少なかった。 電話での対応は、以前と比べると礼儀も良く改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が収束した後、すぐに地域交流スペースを日常的に立ち寄れる場所、誰もが気軽に楽しむことができる場所になるよう、継続して環境を整えていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡保きらめき広報誌「いこっさ新聞」を継続発刊し、地域の方々の活動内容を掲載し、更に輪が更に広がり交流を深めていく。 ・地域の神社の掃除や町内のゴミ拾い等の奉仕活動を通して、地域へのお役立ちに努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、感染予防のため、各行事には参加はできなかったが、オンラインにて地域会議に参加した。また、外出の規制のある中、神社への参拝、落ち葉拾い、近隣の知人を訪問し柿やみかん狩りをした。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた時期や、畑の収穫を行う秋の収穫の時期等、若干ではあるが関りが持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、感染予防を行いながら畑等で、交流した。 ・なかなか関わる事が出来なかった年だが、電話等で日々意見交換できる関係は良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種が終わるまでは感染リスクを鑑み、人が多く集まる場所への参加は今後も控えていくが、地域との交流は日々行い、地域へのお役立ちに努めていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の地域での本人の暮らしを知り、生活の中でも地域に出向いていけるよう在宅でのアセスメントを強化していく。 ・ご利用者の〇〇したいの声に対して、一部の利用者のみではなく、一年間を通して、利用者全員の〇〇したいの声を聞き、その人らしい暮らしを実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで出来ていた外食、図書館への訪問など3密を避けた結果、出来なかった。また、サービスを利用する日によって、同じように活動ができず、不平等さが生じてしまった。 ・ご利用者との会話の中で昔の出来事などの聞き取りを十分行った。その結果、本人と職員が話し合いを行い、再び得意な事が活かせるような支援が出来ていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症ですべてのイベントが中止となり、何も出来なく、寂しかった。 ・オンラインを活用している事は素晴らしい事です。 ・畑は一緒にしているので、これからも継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出向けない人のためにもこれからもオンラインでも出来る事を増やしていく。 ・一部ですが地域行事が4月より再開予定となる。活動再開に向けて本人様の暮らしを支えていく。 ・認知症サポーター養成講座を積極的に行い「やさしいまちづくり」となるよう取り組んでいく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で話し合った事項を共有する仕組みを作り、利用者家族に情報発信していく。 ・多くの家族の方が参加して頂ける様に、運営推進会議の日時や内容について案内を行っていきます。地域に出向き、ニーズ・課題に向き合い協力し合える体制を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防のため、運営推進会議の開催が書面での確認のみとなり、情報交換等がスムーズに行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の資産等の権利を守る為「成年後見制度」の話をしてほしい。 ・福祉に興味がある地域の方を選出し、さらに踏み込んだ話ができるとよい。 ・会議が開催できなかったとしても、日常的に話をする機会をもちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議において希望される研修があれば聞き取りし地域の方に参加を募っていく。 ・運営推進会議の参加者を選出（福祉委員等）し、更に地域と一緒に地域の問題課題を改善できるよう努めていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡保きらめきいこっさ新聞や、運営推進会議を通して、防災訓練への協力案内を行っていく。 ・メンバーさんが避難経路がわかるように表示の工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、3密を避けて消防訓練を実施した。災害マップを再度確認し、避難ルートの確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症で開催できなかったことは仕方がない。（→実施はしている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ過であっても工夫をして実施に向けた対応をする。